

会長あいさつ

会長 久保 芳信

はじめに

日本介護クラフトユニオン第21回定期大会に参集いただきました代議員、傍聴の皆さん、大変お疲れ様です。日頃は日本介護クラフトユニオンの諸活動にそれぞれの立場で参加、参画、ご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

第21回定期大会の冒頭にあたり、私からこの1年間の活動に関わる成果と課題、本大会議案に関わる運動の方向性、並びに私たちを取り巻く直近の諸情勢について所感を述べさせていただきます。

自然災害被災地への対応

近年、予想を超える雪害、風水害、猛暑、地震や猛烈な台風などの自然災害が多く発生しています。特に、一昨年に続く8月28日からの「九州北部豪雨」では気象庁が「直ちに命を守るために最善を尽くす必要のある警戒レベル5」の大雨特別警報を発令したものの、大きな被害が出ました。また9月5日から9日の台風15号、そして、10月12日から13日の台風19号は過去最大級の規模で、関東を中心に甚大な被害が出ています。また局所的に起きるゲリラ豪雨など様々な自然災害も日本中で発生しています。

このような自然災害のために多くの人命が奪われ、住宅の破損・浸水、さらには大規模停電による様々な生活インフラの断絶という甚大な被害をもたらしました。あらためて、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被災された方々に対してお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復旧・復興が進み、普段の生活を取り戻されるようお祈りいたします。

NCCUは住宅被災見舞金の給付など、組合員の生活支援につながる取り組みを行っていますが、立て続けに起きる自然災害は毎年増加・拡大しており、今や想定外では済まされない状況です。私たちはこうした災害を教訓として、次なる災害に備える防災・減災対策、そして災害時の危機管理対策をさらに高める必要があります。また、自然災害の要因のひとつ

として地球温暖化があげられており、数年後には海面温度上昇で台風が発生しやすい状況となることや、台風が強大化することとが予測されています。地球温暖化防止は地球規模の対策が必要ですが、私たちも身の回りでできることを進めることが重要であると考えています。

組織の拡大と強化

昨年の第20回定期大会では、「組織拡大」を活動方針の最優先事項に位置づけ、組合員10万人を目標としました。今年度は3分会3,343名の仲間の参加があり、7月31日現在81,837名の組織現勢となりました。関係者の努力に敬意を表し、感謝申し上げます。10万名まで2万名弱に近づきました。引き続き組織化の努力は続けていかななくてはなりません。

組織の拡大とともに大切なのは組織の強化活動です。各総支部では運営委員会で協議を重ね、ステップアップ研修会やイベントなどに、工夫を凝らし、充実した総支部活動が進んできています。

また、地域での組織強化の観点から、3月に「全国支部役員セミナー」を初開催したところ、2日間にわたり活発なディスカッションが行われ、支部役員の方々の組合活動に対する熱意が伝わってきました。組合員の職場と生活基盤に最も近い「支部」を中心とした活動を進め、より一層、身近な日本介護クラフトユニオンとなるよう邁進したいと考えていますので、総支部の役員・組合員のご協力をお願いいたします。

さらに法人との交渉を主体とする分会でも組織強化を進めるため、6月には「全国分会役員セミナー」を開催しました。全国規模で切磋琢磨し連帯感の醸成を図ったことが、今後の活動に生かされることを期待しています。

一方、分会役員の退職などにより分会運営が不能となったために2分会38名の分会廃止がありました。ユニオンショップ協定が未締結の分会では、新規加入の組合員が増えなければ組織活動はジリ貧となり、消滅の方向に進んでしまいます。未加入者への加入促進を分会の最重要課題と位置付けて組合説明会などを計画的に進め、分会の立て直しや未加入者対策に総力を挙げて取り組まなければなりません。そのため組織強化・教育の専属担当が主体となって、分会役員の指導・育成、労使関係の強化などにもバラツキが出ない体制を構築しなければならないと考えています。

労働条件改善への取り組み

日本介護クラフトユニオンでは、2009年から「介護従事者が希望と誇りを持って働く

ための賃金水準は、月給者も時給者も全産業平均を下回ってはならない」という理念に基づき、交渉を進めてきました。

2019労働条件交渉では、2月開催の第19回中央委員会で決定した要求内容に基づき労使交渉を進めてきました。しかし、月給制の介護従事者の賃金と全産業平均賃金との差は約6万2,000円も開いています。また、介護人材不足は深刻度を増しており今年8月の有効求人倍率をみると全産業平均の1.59倍に対して介護業種は4.43倍と、高い数字で推移しています。介護人材不足の要因は私たちの調査でも明らかで、不満の一番目に挙げられているのが賃金をはじめとする労働条件の低さです。介護人材不足による介護保険制度の崩壊を招かないためには、介護従事者の賃金をはじめとする労働条件を引き上げることは急務であり、日本介護クラフトユニオンは引き続きこれを強力に推し進めなければなりません。

政策・調査活動

介護保険制度は発足から20年となり、2021年4月からは第8期介護保険事業計画へ進みます。現在、厚生労働省社会保障審議会介護保険部会で次期計画に関する論議が進んでいますが、要介護1・2の生活援助の総合事業への移行や、ケアプランの有料化、利用者負担割合の見直し、居宅の管理要件となる主任ケアマネジャーの課題などについて、今年12月末までに意見のとりまとめが行われることとなります。NCCUとしては引き続き組合員の声をふまえて意見を述べたいと考えています。

さて、今月10月より消費税が8%から10%に引き上げられました。軽減税率が導入され、スタート時から混乱している状況です。今回の引き上げ目的は「高齢化で増える社会保障の費用を社会全体で負担する改革」とされています。幼児教育・保育無償化など少子化対策が進むことは歓迎すべきと思いますが、一方で待機児童対策が不足していると感じます。

また、私たち介護従事者に対する「介護職員等特定処遇改善加算」が新たな人材確保策として手立てされることは歓迎すべきと考えますが、一部給付されない職種があることや、加算の配分が複雑であることで混乱をきたすのではないかと危惧しているところです。NCCUとしては分会役員の勉強会などを実施して理解を進め、各法人との協議に備えてきました。

さて、先ほども述べた通り、介護現場で一番困っていることは、介護人材不足であります。介護人材確保については国として対応が進んでいますが、抜本的な対策としては介護従事者の処遇改善が最良の特効薬であると、介護保険部会等においても意見を述べているところです。これからも組合員の声を集約してそれぞれの場面で力強く発言を続けていかななくてはな

らないと考えています。

調査活動では『就業意識実態調査』『賃金実態調査』をはじめ各種調査を実施してきました。回答をいただいたご意見については、介護従事者の状況を広く知っていただきたく、記者報告会などの場で公表しています。また、介護保険制度を論じる会議等でも組合員の声として発言しています。

一昨年実施した『ご利用者・ご家族からのハラスメントに関するアンケート』は、その後、テレビ・ラジオ・全国紙・地方紙・専門紙誌など、多くのマスメディアで取り上げていただき、介護現場の状況に対する理解が深まったと思います。

そして、厚生労働省による「介護現場におけるハラスメントに関する調査研究会」が立ち上がり、NCCUからも委員として参加し、介護事業者向けの『介護現場におけるハラスメント対策マニュアル』が作成されました。またさらに現在、「介護現場におけるハラスメントに関する研修・相談支援の在り方に関する調査研究事業」も進んでおり、これから介護事業者が活用できる研修の手引きや、相談支援の手引きが作成される予定で、これにもNCCUから委員として参加しています。このような対策が進み、介護現場におけるハラスメントの防止につながることを強く願うところです。

介護業界の労働環境改善を進める労使の会（略称:労使の会）

次に4年目の取り組みとなる「介護業界の労働環境改善を進める労使の会」に触れたいと思います。これまでに、日本介護クラフトユニオンと労使関係のある法人との間で『ハラスメント防止に関する集団協定』『ご利用者虐待防止に関する集団協定』『ご利用者・ご家族からのハラスメント防止に関する集団協定』の3つを締結したことは大きな成果であると考えています。特に、『ご利用者・ご家族からのハラスメント防止に関する集団協定』については、労使の会で早急に取り組むべき課題と受けとめ、集団協定の締結に至りました。今回の取り組みは日本介護クラフトユニオンと労使関係のある法人との間だけに留まらず、会のネーミングが示すように、介護業界の労働環境改善に資することを目指したいと思います。

政治活動

一昨年9月開催のUAゼンセン第7回定期大会で、第25回参議院議員選挙に向けた田村まみ氏の擁立が決定して以来、国会に送り出す活動を進めてきました。川合孝典参議院議員に続く組織内議員の二人目として田村まみ参議院議員の誕生を実現できたことを、共に喜び合いたいと思います。介護従事者の労働環境に直結する介護保険制度をはじめ、日々の暮ら

しや人生設計に関わる社会保障制度や税制は、政治と大きく結びついています。日本介護クラフトユニオンの代弁者として活躍いただけるよう今後共協力していきたいと思ひます。

結成 20 周年事業

日本介護クラフトユニオンは2000年1月24日に結成し、来年で結成20周年を迎えることとなりました。この間、山あり谷ありでしたが、ようやく20年という節目を迎えられることを組合員全員で喜び合いたいと考えています。そして、諸先輩の方々をはじめ、これまで支えていただきました全ての方々に厚く感謝申し上げます。現在、『NCCU結成20周年実行委員会』を設置して、20年間の振り返りと今後のNCCU活動に弾みをつけるための企画を進めていますので、どうぞご期待ください。

結びに

最後になりますが、日本介護クラフトユニオンが行う重要な活動は先に述べた以外にも、生活応援・共済事業、広報、教育・男女共同参画、社会貢献活動などたくさんあります。また、社会環境の変化に伴い、外国人組合員のサポートや、性的少数者(LGBT等)の対応もより一層進めていかななくてはなりません。

本大会スローガンは、「NCCU運動でつくろう、日本の介護『夢・希望・未来』」、サブスローガンは大会報告書・議案書の1ページにある5つです。組合員全員が力を合わせて職業別労働組合の活動を進め日本のより良い介護の職場を作っていくではありませんか！

2020年度もNCCU運動を着実に前進させてまいります。今後も、組合員の皆さんにはNCCU運動へのご理解、ご協力をお願いして私からの挨拶とします。

それでは、本日長時間となりますが、宜しく願いいたします。

組合員の幸せのために共に頑張りましょう！

以上